

加盟団体 殿

個人会員 殿

全剣連「剣道における熱中症への取り組み（第1回報告）」送付の件

前 略

先日、全日本剣道連盟より「剣道における熱中症 報告フォーム」による第1回報告・概要・考察が、以下の通り発表されましたので送付致します。

昨今、多くの方々が稽古の出来ない日々が続いていた為、身体の暑さへの順応が不十分です。又これから更に高温多湿の時期に向かい、熱中症が頻発しやすくなります。

今迄にない状況での剣道稽古の実施である事を、再度御理解頂き、個人個人の体調管理は勿論の事、稽古時間の短縮・休憩時間の設定・水分補給・体育館道場の換気・温度管理等に、最良最大限の御留意を頂きます様御願い致します。 合 掌

全剣連「剣道における熱中症報告フォーム（回答）集計結果」

（令和2年6月17日～7月16日）

- 1 報告件数 9 件
- 2 重症度内訳

分類	症 状			
I 度	めまい・失神	0 件	2 件	2 2.2 %
	筋肉痛・筋肉の硬直	0 件		
	手足のしびれ・気分の不快	2 件		
II 度	頭痛・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感	5 件	5 件	5 5.6 %
III 度	（II度の症状に加え）		2 件	2 2.2 %
	意識障害・けいれん・手足の運動障害	1 件		
	高体温	1 件		
	肝機能異常・腎機能障害・血液凝固障害	0 件		

3 概 要

- ・ 熱中症は、Ⅱ度が多かった（55.6%）。
- ・ 熱中症Ⅲ度は、2件みられた。
- ・ 1件は救急車で運ばれたが、入院が必要な症例は無かった。
- ・ 2件で、熱中症というよりは酸欠を疑わせる記載が見られた。
 - 1件目：「面マスクが口と鼻に密着し、全く息が出来ない為に起こった」と記載。
 - 2件目：不織布マスク着用、急に崩れ落ち、意識消失。
- ・ 発生地域に明らかな地域差は見られなかった。
- ・ 男女数は、ほぼ同数。
- ・ 生徒・児童・低段位者に多く、学校での部活動や道場の稽古再開を反映していると考えられる。
- ・ 発生時の気温は23～28℃であり、熱中症の「運動に関する指針」の気温（参考）の注意レベルで、ほとんどの事故が起きている。
- ・ 発生時刻は、日没後に半数が見られた。
- ・ エアコンの使用は、1件のみであった。
- ・ 換気は、1件を除き行われていた。
- ・ エアコン・換気いずれも行われていなかった例が、1件あった。
- ・ 全件でマスク又はフェイスシールドを着用しており、面マスク着用が多かった。但し、全件が面マスクを着用していたかどうかは不明。
- ・ 1件は、全剣連が警告している不織布マスクを着用していた。
- ・ シールド着用は、全件で行われており、口元タイプが多かった。
- ・ 基礎疾患を有する者はおらず、体調不良は1件で見られた。

4 考 察

- ・ 熱中症の「運動に関する指針」の気温（参考）の注意レベルで、ほとんどの事故が起きた理由について、以下の可能性が考えられる。
 - 稽古前の暑熱順化が、不十分であった可能性。
 - マスク・飛沫防止策により、体温が上昇しやすかった可能性。
 - 曇天が多かったので、湿度が影響した可能性。
- ・ 不織布マスクや顔に密着するマスクによる酸欠に注意が必要。
- ・ 高齢者や基礎疾患の有る者については、酸欠・脱水・暑熱順化の対応を特に徹底。
- ・ 特に指導者は、熱中症の知識を持ち、稽古量を段階的増加させる計画立案を行い、又体調不良者の管理を行う必要がある。

（ 全日本剣道連盟 医・科学委員会 ）

令和 2年 7月 25日

世田谷区剣道連盟

会 長 中村 誠司